

○亀田 貞彦¹, 白澤 榮嗣²

¹亀田内科, ²白澤整形外科

【目的】線維筋痛症患者(FM)の痛みの認知においては、痛みの増強は上行疼痛径路、下行疼痛抑制径路のそれぞれの異常もの関与も考えられる。上行疼痛径路にてsubstance-P、グルタミン酸の関与が、又、上位中枢にてGABAが、下位中枢にてグリシンが関与している事も推定される。今回、上記4物質につき検討した。[血中]

【結果】Substance-Pは、FMの方の平均は24.0pg/ml、健常人のそれは15.4pg/mlで、 $t=2.3$ 、 $\alpha=0.05$ で有意の高値を認めた。グルタミン酸値については、FMの方は、73.2n mol/ml、健常人のそれは、47.6n mol/mlで、 $t=4.8$ 、 $\alpha=0.001$ の有意の高値を認めた。Substance-Pとグルタミン酸の相関は、 $\gamma=-0.07$ であり相関は認めなかった。各々、関連なく働いていると考えられる。

GABAについては、FMの方は、145p mol/mlで健常人の平均163p mol/mlより定値であった。 $t=1.74$ 、 $\alpha=1.0$ と有意の差の可能性はある。主に下位の中枢に働くと考えられるグリシンのFMの方の平均は、335n mol/mlで、健常人のそれは、245n mol/mlであり、有意の差を認めた。 $t=2.7$ 、 $\alpha=0.02$ 。GABAとグリシンの相関は、0.34であった。

【結論】FMの方においては、血中substance-Pとグルタミン酸は有意に高値であった。

GABA値は低値であった、一方グリシン値は高値であった。

利益相反：無